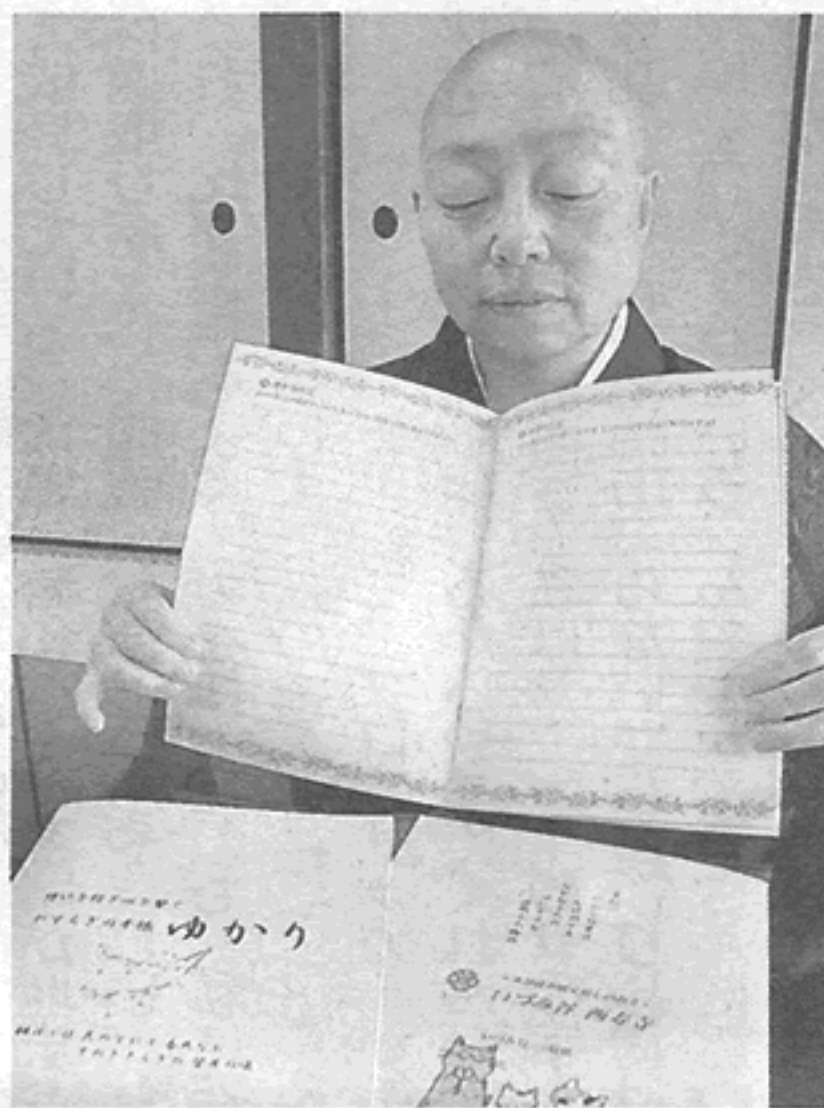


市民版



エンディングノートにつづって



「残された人の心の支えにしてほしい」とエンディングノートを手にする村井住職(京都市右京区鳴滝泉谷町・西寿寺)

残された人へ伝えたい思い

京都市右京区の西寿寺は、人生の終末期や死後の要望について書き留めるエンディングノート「やすらぎの手帳 ゆかり」を作成した。親しい人への感謝の気持ちを伝える部分に重点を置き、「残された家族の心の支

右京・西寿寺が作成

えにして」と希望者に無料で配布している。村井定心住職(57)が、理事長を務めるNPO法人「自分で考えるラストセレモニーの会」のメンバーらと企画した。「財産分与など個人情報を書く欄があると書きにく

い」という声を受け、大半は大切な人との出会いや伝えたいことを自由につづってもらおう。ノートに記した内容は「遺言」として効力を持たないため、法的な遺言作成の勧めのほか、後見人制度、ペットの終身預かりを行う民間団体などを紹介。介護や埋葬の方法はチェック方式にした。

村井住職は「ありがと」の気持ち込めて書くことで、家族や大切な人の安らぎになればうれしい」と願う。

A4判、20ページ。問い合わせは西寿寺 ☎075(462)4851。

(富田芳夫)